辞書・用語集

Medical Dictionaries and Terminology Works

板橋 瑞夫*

昭和大学図書館

内 容

1. はじめに
2. 胃潰瘍とは：胃潰瘍についてどの辞書の解説がわかりやすいか
3. 胃潰瘍を引用した辞書：和羅英独仏対照医学大字典，世界大百科事典，南山堂医学大辞典，スタンダード看護事典，広辞苑，看護医学事典，常用医語事典
4. 胃潰瘍と *Index Medicus*：辞書の用語からは必ずしもひけない
5. 日本語からひく用語辞典
6. 外国語から日本語への用語集
7. 各科用語集
8. 漢方・生物・歯学・薬学など関連領域の辞典
9. 略語術語の辞典
10. 英語による医学術語を学ぶこと
11. 人名と業績の辞典
12. 文部省学術用語集
13. 辞書と症候群：辞書だけでは十分なサービスが出来ない
14. おわりに

1. は じ め に

辞書・用語集をもたない図書館はない。それでは図書館員は個々の辞書・用語集についてどれだけ知っているのでしょうか。新進の医学図書館員を対象に述べてみたと考えている。最初に胃潰瘍とは何だろうと辞書で調べてみた。解説の優劣を比較するためではなく、どれが解説としてわかりやすいかを比較するためにである。医

学用語は特殊なものであるし、はじめて出会った用語も多いことであろう、従って所謂医学辞典よりも一般向けの辞書の方が表現もわかりよく書いてあるので理解しやすいのではないか。医学図書館員になったからと云ってすぐに医学辞典をひく必要もなかろう。わかるところからはじめていけばよいのだから。次にどこの医学図書館でももっているであろう辞書から、はしがき、凡例などなるべくそのままのかたちで引用した。そして特に索引や付録は知っていると便利なので残らず書いておいた。一般に辞書を使うといえは、はしがきなど読まず、ただちに「イカイヨウ」をひいて独語訳がないことに気付いたり、日本語からの辞書でも「外国語の索引」を使えば、英和辞典の役に立つことなど知らないことが多い。和英の辞典をひいてから *Index Medicus* をひくことも考えられるので、これについても簡単に説明を加え、そしてこれに関連して英語で書かれた医学術語の小冊子をも紹介した。特殊な用語集については、こういったものもあるということと各学会で機関誌などに随時掲載されることに注意を怠らないことを述べ、最後に辞書と「症候群」について述べた。とにかく書架に行って実物を手にし、意にかなったものを自己のものにしてしまうこと、即ち医学図書館員としての第一歩であると思う。

2. 胃 潰 瘍 と は

1. I-kaiyô 胃潰瘍 ①ulcus ventriculi ②peptic ulcer ③Magengeschwür f. ④ulcère peptique m. 典型的なのは円形の辺縁鋭利な漏斗状、或いは階段状の粘膜欠損がある小弯側幽門に近い部が好発部である。原因としては、確定的な定説は未知であるが、胃酸酸度高い者は、本症にかかる素質が多い。自律神経性分泌亢進胃壁血行障

* Mizuo ITABASHI : Showa University Library

害等も素因となる。症状として限局性心窩痛(食後に量, 質, 時間的關係あり)嘔吐, 吐血, 下血, 糞便内潜出血, レ線上壁竈を証明する。薬剤としては胃酸中和分泌抑制のためアルカリ剤, アトロピン剤, バンサイン等を用いる。

2. いかいよう, 胃潰瘍, タンパク質分解酵素のペプシンは, 塩酸酸性の条件の下にタンパク質を分解してアルブモゼ, ペプトンの形にまですることができる。正常胃液の中には塩酸とペプシンとがあるが, 健康な自身の胃壁の成分であるタンパク質を消化分解することはできないようになっている。ところが種々の原因, たとえば胃血管がつまること, 動脈硬化, 血管けいれんなどによって胃の一部分に血液の流通が悪くなるとその部分のタンパク質が消化されて粘膜, 筋層まで穴があく。これが胃潰瘍であって消化性潰瘍ともいい, またその形がまるいので円形潰瘍とも呼ばれる。

3. 胃潰瘍 [英 gastric ulcer 独 Magengeschwür 仏 ulcère gastrique 羅 ulcus ventriculi] Cruveilhier が初めて独立疾患として記載した。男に多く, 40 歳台に最も多い。胃粘膜の局所的栄養障害によって抵抗脆弱部位を生じ, そこに胃液が作用して生ずると考えられている(消化性潰瘍), しかしいかなる原因で局所の原発性組織障害が起こるかについては胃液消化説, 胃炎説, 局所循環障害説, 機械的刺激説, 先天性組織異常説などがあるが未だ不明の点が多い。塩酸およびペプシンがなんらかの形で潰瘍発生に関与していることは確かである。局所性因子の他に自律神経異常, 内分泌異常, 全身栄養障害, アレルギー体質異常などの全身性因子の関与も考えられる。また一旦生じた組織欠損が徐々に進行して慢性化する原因も明らかでない。

4. 胃潰瘍と十二指腸潰瘍 @gastric and duodenal ulcer 胃潰瘍・十二指腸潰瘍の真因は必ずしも明らかでない。胃液の消化作用が大いに関係あることは, 潰瘍は胃酸過多症に多くまた酸性胃液の通る所に頻発することより推定される。また健全な胃粘膜は胃液によって消化されないが粘膜の血管の障害があると栄養障害がおこりその部分が消化されて潰瘍となる, 自律神経の失調や精神的ストレスが加わったさいなども胃液の分泌を促すために胃潰瘍をおこしやすい。胃潰瘍の発生部位は小弯とくに胃角, 幽門直前, 十二指腸潰瘍では球部に多い。潰瘍の形は円形または橢円形で, 深さは粘膜下迄のもの, 漿液膜下に達するもの, 穿孔して腹膜炎をおこすものなどがある。

5. いかいよう, キクワイヤウ [胃潰瘍] 胃壁の潰瘍。多く幽門部に発生, 胃部の疼痛, むねやけなどを訴え, 重症になれば吐血, 下血を起すことがある。

6. 胃潰瘍 [E] gastric ulcer [E] Magengeschwür 胃壁の消化性潰瘍で, 胃小弯の胃底部に最も多い。臨床的に十二指腸潰瘍とともに消化性潰瘍としての共通点が多い。

7. 胃潰瘍★ ulcus ventri culi (潰瘍 胃の) gastric ulcer, Magengeschwür n. 胃粘膜面より始まる胃壁のきわめて特異な組織欠損である。多くは一個ないし少数の円形ないし橢円形の潰瘍として幽門付近あるいは胃角部の小弯側ないし後壁にできるものである。40 歳代の男子に多く認められる。胃潰瘍は胃粘膜の糜爛と共にその成立には胃液の消化が大きな役割を演ずることは疑いないので, 消化性潰瘍の名さえ与えられている。したがってまた胃液の消化作用の行なわれる十二指腸の球部, 時にはそれ以下のところまでにも, 胃潰瘍と全く同一の性状を示す十二指腸潰瘍の発生を見るものである。胃十二指腸潰瘍なる名の下に, 医学がこれを総括して処置しているのはこれがためである。大主徴として, 疼痛・出血, 過酸症があげられる。自発痛は上腹部に限局し, 食事摂取と関係がある。診断はX線検査によってニッシェの証明や胃カメラの所見によって確定される (ICD: 531.9)

日本語からひく医学辞典そして一般の辞典を併せて7点から「胃潰瘍」を引用, 抜粋してみた。新進医学図書館員の諸子は, いずれがもっともよくわかる, よく理解出来る「胃潰瘍」であったであろうか。辞書はその利用対象, 項目の選定, 構成, 索引, 付録等々, それぞれの特色, 特質を持ちあわせている。大事なことは辞書そのものをよく知っているかどうかである。ならうよりなれるということかもしれない。早くある辞書を所謂ものにしてしまう, 自家薬籠中のものにしてしまうということが必要であろう。従ってどの辞書がよいとか悪いとかの評価は別として, 辞書をまずよく知ったうえで使うことになろうか。それら辞書の序文, はしがき, 索引, 付録そして本文例をそのまま紹介して, どの辞書をどう使うかの判断の一助に供したいと思う。辞書を使うのはあなたがた自身なのである。

3. 「胃潰瘍」を引用した辞書

Japanese-Latin-English-German-French Medical Terminology.

和羅英独仏対照医学大辞典 青柳安誠, 後藤光治, 平沢興, 西村秀雄, 大谷卓造 昭和32年 金原出版 1,259 p.

医学に関する日本語の術語を先ず挙げて, 解説を付し, 更にこれに対応する羅・独・英, 仏語を併記してある。名詞を中心に 緊要語と思われるもの約80,000語を収録してある。排列は日本式(訓令式)ローマ字順, 付録はなし。

世界大百科事典 1964年版 平凡社

Nanzando's Medical Dictionary.

南山堂医学大辞典 相沢豊三他160名執筆 改訂10版 昭和39年 南山堂 1,849 p.

医薬学およびその関連領域において過去10年間に出現した重要な術語をもれなく収載, 項目約15,000挿図および構造式の凸版総数約1,000余個, 索引語数約34,000余。なお現在あまり用いられない術語, 語義, 学説などもその進歩の過程を知り, 新旧の変遷を理解するために必要と思われるものは収載してある。解説の程度は既存の外国語の辞典の翻訳でも翻案でもない。但し解説は余りに専門的に深入りせず, 大学の医学科課程の程度を目安としている。項目の配列は, 現代かなづかい五十音順, 索引は外国語索引(p.1,659~p.1,849)がある, 従って gastric ulcer からでもひける, つまり南山堂医学大辞典は医学英和大辞典としての機能をも充分果たし得ると云うことである, 日本語による医学辞典としてひくのみでなく医学英和辞典としてもひけること, これが辞書をよく知ることなのだ。辞書の特徴の一つとして, 付録, 索引をたくみに使うこと。ただばく然と辞書を使うということよりもどれだけ有用なことか。辞書を自分のものにするということである。

Standard Encyclopedia of Nursing.

スタンダード看護事典 太田敬三, 大淵重敬, 北博正, 浜口栄祐, 原田儀一郎 昭和40年 金原出版 779 p.

この事典は, 実地勤務中の看護婦ならびに看護学生をはじめ, 保健婦, 保健教員, 歯科衛生士等のためのよき指導書として役立つことを目的として編集されている。そこで医学, 看護学の専門書, 看護学教科書等から最近の知識もふくめてその業務に必要な約7,000にわたる項目を厳選して収録してある, 配列は五十音順。付録に食事療法, 小児の予防接種, 小児の中毒診断および人口動態等を表示して使用の便をはかっている。付録は p.759~p.779. である。

医学図書館21巻3・4号(74)

広辞苑 第2版 新村出 昭和45年 岩波書店
一般向け辞書である。

看護医学事典 第2版 原弘毅, 日野原重明, 酒井哲哉 永井敏枝編 昭和41年 医学書院 843頁。

看護学生ならびに看護婦のよき指導書としてのほか, 実地勤務中のよき手引書であることを念頭において, 看護学の教科書のほかに医学, 看護学の専門書のなかから必要な項目10,000あまりを選んで収録してある。配列は, 標音五十音順, 付録には臨床正常値などがある。

常用医語事典 緒方知三郎, 緒方浜之, 昭和43年 金原出版 1,158 p.

この辞典は, 日常多くの医学関係者によって使われている必要な医学用語に解り易い簡潔な解釈説明を与えると同時に, その用語に該当する外国語(主としてラテン語)の語原をも明示することを目的としたものである。したがって編者の仕事始めはこの目的にかなった常用医語の蒐集にあった, 編者は医師国家試験問題とそれらの答案集の中に使われている用語をもって一応その目的にかなう範囲内にあるものとして集めたのであるが, そればかりではなく編者の脳裡にすぐ浮んでくる医学に関係のある普通語もこれに加えてある。収載した用語のうちでその右肩に★印をつけてあるのがそれである。なお在来の医学辞典に収録されているその他の用語のうち必要と思われるものもすべて採用したので, 結局19,300語に及ぶ多数の用語が収められている。内容を8部に分けている。第1部(p.1~p.748)漢語篇:漢字を冒頭に持つ用語を集め, 頭文字の頭にしながらアイウエオ順に配列, 前述の胃潰瘍のごとくである, 第2部(p.749~p.900)原語篇:外国の用語を慣例の読み方にしながら, アイウエオ順に配列。ガストロカメラ★gastrocamera, Gastrokamera n. ⇒胃カメラ[エイ5](注第1部イの5行目ということ)第3部(p.901~p.1,036)人名篇:人名はすべて慣例にしたがって読み, その音を片仮名がき(下に横線を引いてある)にしてアイウエオ順, ウィルヒョウ Virchow Rudolf Ludwig, Karl (1821~1902) —のリンパ線★-s' lymphatic gland, -sche Drüse f. 鎖骨上窩(ことに左側)にあって, しばしば内臓(主として骨)の癌腫からの転移巣の認められるリンパ腺である。第4部(p.1,037~p.1,069)和語篇:和語はすべて平仮名がきにして, あいうえお順やけど(火傷)★combustio, burns, Verbrennung. f.

→火傷 [1 か 2] (I. C. D. 9490) 第5部, (p. 1, 071 ~ p. 1, 082) 数字篇: 漢数字とアラビア数字とに分け, 前者を先にした。一酸化炭素中毒★ carbonmonoryde poisoning. Kohlenmonoxydvergiftung. f. この中毒の本態は, 一酸化炭素が血球のヘモグロビンと結合して解離しがたいために酸化ヘモグロビンの形成を妨げて呼吸障害を起すことにある。(I. C. D. N 986) 第6部 p. 1, 083 ~ p. 1, 127) アルファベット篇(記号・略語): ローマ字 (A, B, C) とギリシヤ字 (α , β , γ) に分けてこれをアルファベット順に配列, AMP adenosin monophosphate アデノシン一リン酸→アデニル酸 (II 3) 第7部, (p. 1, 129 ~ p. 1, 138) 漢字索引: 緒方知三郎は, 昭和25年8月字型で引く漢和辞典(未発表)を完成した, それは漢字の形態の特徴(字型)をとらえて理論的に分散したものである。この漢字索引は, その理論の実際的な応用といってよい。第8部 (p. 1, 139 ~ p. 1, 158) 国際疾病分類 (I. C. D.) 表: 第8回修正国際疾病分類 (International Classification of Diseases) の概要を示すために3桁までの番号を示した。第1, 4, 5部の説明の最後につけられているのはこの番号である。この辞書の第1部への索引が第2, 4部といえるし, 第2部への導きは第4部からも関連づけられている。この辞書の場合も単に日本語から日本語の解説が求められるだけのものではないことが理解出来るであろう。従って辞書の本文そのもののほかに, いかなる索引がつけられているか, いかなる付録がつけられているかなどを充分に知っておくことが, その辞書の能力を数等倍以上に発揮させることが出来るということを銘記しておくべきである。

4. 胃潰瘍と Index Medicus

代表的な辞書を使って, 胃潰瘍とは何かを調べてみた。そしてその外国語を知ることが出来た。そこで *Index Medicus* (I. M.) から外国語の文献を探索してみよう。辞書から peptic ulcer と gastric ulcer であることがわかったので, Medical Subject Headings 1976 から Alphabetic List を繰ってみる。gastric ulcer は見当たらないが peptic ulcer は見付けることが出来た。この件名で I. M. を引いてみると, 胃・十二指腸潰瘍とか消化性潰瘍の文献は見当るが, 胃潰瘍そのものの文献は見当たらない。そこで Medical Subject Headings (MeSH) に戻り Categorized List を引く。

Peptic ulcer
Doudenal ulcer
Esophagitis, peptic
Marginal ulcer
Peptic ulcer hemorrhage
Peptic ulcer perforation
Stomach ulcer.

Peptic ulcer が6項目に区別されていることがわかる。即ち peptic ulcer のもとに配列される文献は, I. M. の規則の上からこの6項目に含まれないものであること, 従って辞書で知った peptic ulcer で I. M. をひいた結果は, 消化性潰瘍或は胃・十二指腸潰瘍の文献のみであって求める胃潰瘍の文献は得られないことがわかる。それではこれらの6項目について辞書をひいてみる。十二指腸潰瘍, 消化性食道炎, 角膜辺縁潰瘍, そして出血性潰瘍, 穿孔性潰瘍などであった。Stomach ulcer は日本の辞書では見当たらない, そこで Stomach ulcer の件名で I. M. をひいてみると「胃潰瘍の治療傾向に関する研究」「実験胃潰瘍における筋電図の変化について」等々の文献を得ることが出来た。即ち辞書による peptic ulcer では胃潰瘍についての文献は見当らず, 胃潰瘍とは Stomach ulcer なる件名でなければならぬことがわかった。名詞の形容詞的用法ということである。これは Hepatic diseases ではなくて Liver diseases であること, Renal diseases でなくて Kidney diseases といったものと同様の用法である, 要するに I. M. の件名は, 特殊な用語であって辞書をひくことによって得られるものをそのまま件名として使ったのでは検索出来ないということなのである。

Alphabetic List では見付からなかった gastric ulcer からはどうひけばよい。Ulcer をひいてみる。

Ulcer
Corneal ulcer
Peptic ulcer
Skin ulcer

とある。従って Peptic ulcer から前述の如き結果が得られる。次に Categorized List をみると ulcer は, atrophy (萎縮), autolysis (自己融解), hypertrophy (肥大), inflammation (炎症), necrosis (壊死) などと共に pathologic processes のもとに集められている。生体においておこる種々の病変の機能的異常, 生体の構造の変化, 所謂病理的变化である。MeSH の使い方として, 疾患名や部位からのみでなく病理的变化などの用語からの検索も記憶に止めておくべきであろう。辞書の

用語はただちに I. M. の用語, MeSH の用語ではない。即ち, 辞書の用語からは必ずしも I. M. をひくことは出来ないことを銘記しておくべきである。

5. 日本語から引く用語辞典

New Pocket Medical Dictionary : Japanese-English-German. 新和英独医語小辞典

藤田五郎 昭和 38 年 医学書院 333 p.

語の配列はすべて日本式ローマ字。ABC 順。本文のあと p. 329~p. 333 は主要略語で索引はない。

ikaiyo 胃潰瘍 [L] ulcus ventriculi gastrelcosis, gastric ulcer: Magengeschwür(n.).

Medical and Nursing Terminology (Japanese-English-German) 医学・看護学用語辞典 和英独対照

酒井哲哉 荒木盛雄 渡辺義一 土屋郁郎 工藤吉枝 後藤寿美子 昭和 33 年 医学書院 279 p.+51 p.

医学用語の読み方, 既往歴, 主訴及び現症に関する用語, 内科小児科以下各科にわたる用語で本文を構成, 索引 (51 p) がつけられている。

胃潰瘍 gastric ulcer (ギヤスとリック, アるサー; ulcus ventriculill) うるクス ヴェンとリクリ, Magen-geschwür マーゲンゲシュヴェール。

Practical Japanese-English-German Medical Dictionary 発音かな付和英独医語字典

高島令三 山室利夫 昭和 25 年 文光堂 316 p.

日常医語 7,000 語, 配列 50 音順。

胃潰瘍 gastriculcer ギヤストリック アルサー Magen-geschwür マーゲンゲシュウェール。

Japanese, English and German Medical Terms.

発音かなつき, 英→独→日, 独→英→日, 日→英→独対照医語集 付日常語 (日・英・独)

鳳鳴堂編集部 昭和 32 年 鳳鳴堂 350 p.

普通用いられている医語, 用語を英, 独, 日のいずれからでも利用できるように英→独→日, 独→日→英, 日→英→独の順にまとめられている, 日→英→独の配列は ABC 順である。

英 gastric ulcer (ギヤストリック アルサー)

独 Magengeschwür (マーゲンゲシュヴェール)

日 胃潰瘍

付録は, 日常語, 基数, 序数などをのせてある。

医学図書館 21 巻 3・4 号 (74)

Jap-Engl-Germ-Lat Common Medical Terminology.

日一英一独一羅 必携配語辞典

鳳鳴堂編集部 昭和 44 年 389 p.

和→英→独→羅の順に解剖学及び生理学の項目以下各科別 13 章に分けて配列, 索引は日本語の ABC 順で 80 頁にわたっている。

胃潰瘍 (日) gastric ulcer (英) Magengeschwür (独) ulcus ventriculi (羅)

和英病名用語集 附主要常用医語

渡辺定編 昭和 22 年 創成社 211 p.

International List of Causes of Death and Manual of Joint Causes of Death, 1939 から必要と思われる疾患名 2,000 余 *Standard Classified Nomenclature of Diseases* 1938, から身体各部の名称ならびに皮膚, 耳鼻, 眼科, 精神病等の疾患名を加え, 尚, 临床上必要と思われる若干の用語を附加してある。附録は, 医師及び各科などの 12 項目の常用英医語を掲載している。

胃潰瘍 ulcer of the stomach: stomach ulcer; gastric ulcer.

Deutscher Sprachführer für Mediziner. 日独医学論文辞典

高田 蒔 昭和 14 年 南江堂 1,156 p.

専門雑誌及び書籍等から論文起草の資料として収集した文例, 語彙を 80,000 あまり収載してある。ローマ字はヘボン式

I. 胃 ①胃の不快 Magenverstimmung 女 刺激状態にある胃 Reizmagen 男

6. 外国語から日本語への用語集

Japan Medical Terminology 医学用語辞典

日本医学会医学用語委員会 昭和 50 年 南山堂 1,238 p.

医学用語を中心とし, 広く歯学, 薬学, 化学その他の分野における医学に関連をもつ用語もできるだけ採録し, 見出し語約 87,800 語, 同義語約 24,500 語, 計約 112,300 語に及んでいる。基本語の組み合わせによって容易に合成語を作り得るもの, 人名の冠せられた語, 長い用語は必ずしも採録されていない。個々の薬品名, 物質名は原則として収録されず, 組み合わせられて医学の術語となっているものは収録されている。医学概念を選択整理したものではなく, その表現に使用

される基本的な語を選択整理し、これを検索に便利な形式に配列したものである。配列は対照外国語のABC順。語原を同じくする語ないしは同義語で語群を形成するものは、多くは英語を中心として語原的に共通なラテン語、ドイツ語、(時にフランス語その他)をこの順に集められている。

gastric, gastricus, gastrisch 胃の

g. ulcer 胃潰瘍

付録はない、なお「医学用語辞典」刊行までと題して小林芳人以下の座談会記事に医学用語整理のあゆみ、用語選択上の配慮が語られている¹⁾。

Kato's Integrated English-Japanese Medical Dictionary 医学英和大辞典

加藤勝治 昭和35年 南山堂 1,718 p.

表題を integrated なる形容詞で修飾した理由は語字を収載するに際し、伝統的純医学の領域にのみ限らず、医学を中心として考えた場合に、それに直接また間接の関係をもつ衛星科学の各分野からも選択したからである、約15,000収載。

gastric (gyastrik) 胃の, g. ulcer 胃潰瘍=peptic ulcer.

Nippon-Rinshosha's English-Japanese Medical Dictionary 英和医語大辞典

石川光昭 昭和30年 日本臨牀社 1,350 p.

The American Illustrated Medical Dictionary に収録されている術語とその解説を用いること、しかし学術の進歩やわが国の事情などに照して不必要なものは除き、必要なものは新たに加えてある。当初21版に準拠したが22版が発行されるに及び原稿の改訂が行なわれた。見出し語は原則として22版の配列に準じ、訳語及び解説の用語は原則として日本医学会選定用語に準拠したが、慣用に従っているものもある。

ulcer 潰瘍 gastric ~胃潰瘍

付録はない。

Watanabe's Pocket Medical Dictionary. English-German-French-Latin-Japanese ポケット医学英和辞典

渡辺良孝編 昭和42年 医学書院 1,495 p.

1) 小林芳人, 緒方富雄, 庄司義治, 榎田良精, 伊藤隆太, 豊川行年, 笹本 浩, 小林 登: 「医学用語辞典」刊行まで「日本医師会雑誌」75(3): 303~313 (昭51)

一般の辞典にある言語で医学の専門語として用いられるものを選定し、これに医語として通用するときの解釈がつけられている。医学と近接領域にある諸科学はもちろん、生化学ならびに薬学、植物学の用語はとりわけ豊富にとりいれ、必要と思われるものには化学構造式を示し、原名を付記して理解の便に供し、また英米の市販の薬品名のうち常識的なものではできうる限り集録し、その略語をもつけ加えてある。俗語や軍用語は従来の辞典ではあまり採用されていない。ことに邦人ではその解釈が難しいが医学に関係ありと思われるもので判明しているものは採用し訳語をつけてある。人名を冠した病名、症候名、徴候名、症状や治療法で稀にしか用いられないものは記憶に困難である。そこでこれらにはやや詳しい説明がつけられている。

gastric 胃の, 胃液の, g. ulcer 胃潰瘍

New Medical Dictionary: English-Japanese 新英和医学辞典

懸田克躬 内菌耕二 渡辺良孝 昭和32年 医学書院 1,018 p.

単語は医学のみならず広くその近接領域に及ぶ。薬学用語は、もちろん従来等閑にされていた欧米の薬品名(市販名を含む)で代表的なものは集録し原名を記してある、最近の医学の進歩は生化学に負う所が多いので、生化学用語は特に豊富に取り入れ、必要と思われるものには化学構造を記して理解の便に供してある。最近略語が流行するため妥当と思われるものは残すことなく採用。附録は略語表、原子量、医学に通常使用される放射性同位元素などがつけられている。

ulcer (Alse) 潰瘍 gastric u. 胃潰瘍: 胃の粘膜を損うもの、胃酸過多、自律神経失調による。

English-Japanese Medical Dictionary 英和医学小辞典

草間良男 昭和23年 金原出版 433 p.

専門語の訳は直接米国辞典によっている。独和医学辞典に親しまれている人には同じ羅典系の医語に頗る奇異と思われる訳語が多いのに気付かれるであろう。それは独逸系医語と英米系医語との解釈の相違である。英米人が臨床上その他日常慣用する多数の略語が蒐録されてある。附録に医学用語略語集、度量衡換算表がある。

ulcer 潰瘍腫物 u. gastric 胃潰瘍

Pictorial Medical English Dictionary 図解医学英語辞典

奥田邦雄 高原満男 昭和 49 年 メジカルビュー社
567 p. (本文) + 60 p. (索引)

綴りはすべて米式綴り、目でみる辞典 Duden の有用性にひかれ医学述語だけを収録してある。基礎編は、解剖学的に 8 項目 内臓学 Splanchnology → 消化管 The digestive tract → 胃 The stomach, 臨床編は、内科から検査機器を含めた 10 項目、図解であって、用語の解説はない。

Latin-English-German-French-Japanese Medical Terminology 羅英独仏和対照医学大字典

青柳安誠 後藤光治 平沢典 西村秀雄 大谷卓造
昭和 33 年 金原出版 76 p. + 283 p. + 160 p. + 96 p.

各国語別にそれぞれ約 140,000 語の医語を集録し、日本語訳を付記、羅、英、独、仏の 4 区分に分類、但しラテン医語は何れの国でも慣用せられるので屢々他の区分にも集録、第一部(既述の和羅英独仏対照医学大字典)にも集録したものは無印、集録しないものは字頭に星印を付して区別してある。この区別に基づき第一部参照の要不要、が識別されるわけである。

Lexicon medicus 羅和医学字典

ulcus 潰瘍 u. ventriculi 胃潰瘍

Medical dictionary 英和医学辞典

gastric ulcer 胃潰瘍

Medizinisches Wörterbuch 独和医学字典

Magengeschwür n. 胃潰瘍

Dictionnaire médical 仏和医学辞典

gastrique 胃の ulcère m. 潰瘍 u. gastrique m.
胃潰瘍

Nanzandos Medizinische Terminologie Deutsch-Lateinisch-English-Französisch-Japanisch 標準医語辞典 独羅英仏一和 34 版

賀川哲夫 浦久保富士雄改訂 昭和 47 年 南山堂
1, 128 p.

初歩の医薬学生より大学教授級の医薬学者に至るまで、あらゆる知識階級者に向って役立つ辞典である。

Gastr-elcoma n. -lcosis f. 胃潰瘍 gastric (-us, -a, -um) 胃の, 腹の Magen-geschwür n. 胃潰瘍 = ulcus ventriculi

Medical Dictionary (English-German-Latin-Japanese) 英独和対照医学辞典

渡辺良孝 昭和 40 年 医学書院 634 p.

語学の知識がなくとも文字どおりにひけば、邦訳を知ることができるようにするため、語尾だけでドイツ語または英・米語を表わすもののうち、常用されている用語は重複をいとわずアルファベット順に配列 Veillon の Medical Dictionary のように英独仏を 3 部にわけて配列することをやめ、全部ひとまとめにして、英独羅全部をアルファベット順に配列してある。

gastric ulcer 胃潰瘍 Magengeschwür (D)

English-Japanese Medical Dictionary 発音解説付英和医語中字典

真柄正直 真柄婦美 昭和 28 年 文光堂 550 p.

発音は原則として米国式で、万国音標文字及び仮名を使っている。

ulcer (ʌlsə) (アルサー) 名詞 潰瘍(皮膚又は粘膜に生ずる化膿と組織の死滅欠損を伴う開口性潰瘍)
gastric u. [gæ'strik] (ギャストリック) 胃潰瘍

p. 513~p. 538 は略語 p. 549~p. 550 は符号である。

Medizin Elementarer Wortschatz 医学基本用語辞典

加納六郎 稲垣秀雄 大槻真一郎 昭和 42 年 同学社 334 p.

これだけは是非必要とされる医学ドイツ用語 5,000 を選び、これに相当する日本語と英語を対照させてある発音はカタカナ。

Magen (マーゲン)

~geschwür (〜ゲシュヴェーア) 中 e 胃潰瘍 (gastric or peptic ulcer, ulcer of the stomach)

索引は、英語篇 gastric ulcer → 本文へ 日本語篇 胃潰瘍 → 本文へ。

Wichtige medizinische Fachwörter (Deutsch-Japanisch, Japanisch-Deutsch) 医学ドイツ語小辞典 (独一日・日一独)

松室重行 昭和 34 年 大学書林 293 p.

見出し語には勿論説明文の語にもいちいちアクセント符号つけてある。その見出し語がドイツ語である場合には、それに相当する外来語あるいはラテン語を対照させ、外来語である場合にはそれに当るドイツ語を挙げたり、あるいは短い句で説明が加えられている。

さらに日独篇を利用することにより Anamnese や Referat を記すのに必要な語を容易に検索したり選んだりすることが出来るようにしてある。

独一日篇 (p. 1~p. 155) Magen-geschwür n. 胃潰瘍 (úlcus ventriculi n.)

日一独篇 (p. 159~p. 293) Ikaiyō (胃潰瘍 mágen-geschwür n. úlcus ventriculi n.)

Dictionnaire médical Français-Japonais 仏和医学辞典

日仏医科会 昭和31年 白水社 644 p.

従来フランス語の医学辞典がなかったので、この辞典の出版によって、フランスの医学書、医学雑誌をひもとくうえに多大の便宜が得られ、またこれによってフランス医学に親しまれる医学徒がいくらかでも増加するならば、仏医学の交流の発展のためにも大いに役立つことになろうかと序文に書かれている。語彙は Veillon の *Dictionnaire médical* その他を参照して、フランス現代の医学文献に現われる術語をなるべく網羅的に採録。新しい術語、医学に関連する他の分野の術語などをできるだけ広く採り入れるようにつとめられてある。

gastrique adj 胃の、消化を助ける ulcère gastrique 胃潰瘍

Geneeskudig Nederlandsch-Japansch Woordenboek 蘭和医学辞典

大矢全節 昭和48年 金原出版 227 p.

定冠詞の変化など文法を要約、基数、序数などを凡例に、文献として各和洋の辞典のリストをのせている。

ulcus n. 潰瘍 Ulceratio Zwer, Verzwering: 胃潰瘍 Maagzweer.

Русско-Японский Медицинский Словарь ソ連医学辞典

大矢全節 昭和45年 金原出版 1,159 p.

ロシア語に該当する英語あるいはラテン語を配して、日本語の適正な医学術語を並記、ソ連の医学がわが国に紹介する意味で、ソ連の著名な医学者たちも出来るだけ多く収録されている。

улькус m. ulcer, ulcus 潰瘍

解説医学用羅典語集

上野一晴 昭和26年 杏林書院 253 p.

第1部に名詞、形容詞の変化を主とするラテン文法が略述されてある。第2部、基礎(主として解剖学)臨床両方面の術語を名詞と形容詞に分離して集録し、名詞には2格語尾と性を附記、形容詞には性による語尾の変化及び必要に応じて2格の変化を附記し、更に語源的説明と英独和訳が書き添えられている。

ulcus. eris m. ulcer. das Geschwür 潰瘍 ulcus ventriculi 胃潰瘍

Lexikon Pharmaco-Medicum Latino-Japonicum ラテン医薬辞典

大矢全節 昭和44年 金原出版 184 p.

p. 1~p. 14 文法 p. 15~p. 16 数詞、付録として処方用語略序解がある。

Gastr(oh)elcoma, atis n. 胃潰瘍 胃内形潰瘍

7. 各科用語集

Nomina Anatomica Japonica 解剖学用語付組織学用語 発生学用語 改版11版

日本解剖学会 昭和44年 丸善 271 p.

解剖学用語 p. 1~p. 216 組織学用語 p. 217~p. 248 発生学用語 p. 249~p. 271 索引は組織学、発生学用語を含まず解剖学用語の索引としてのみある。

Anatomisches Bildwörterbuch der internationalen Nomenklatur 3. Aufl. 図解解剖学事典

Feneis 著 山田英智監訳 石川春律 広沢一成訳 昭和49年 医学書院 489 p.

解剖学で使用される多数の用語を要領よく図と対比させつつ簡単な説明を加えてある。原著には含まれない筋の支配神経名、日本解剖学用語による索引、および慣用的に使われている人名の索引が追加されている。本文のほかに欧文、和文、人名事項の各索引がある。

生理学用語集

日本生理学会編 昭和47年 医学書院 189 p.

外国の用語の日本語訳ではなく、日本語としての生理学用語を統一したものであり、それに対してどのような外国語の用語が対応しているかを示したものである。対応する外国語としては、英語と独語に限られて

いる。更に用語の意味を明確にするために必要に応じて簡単な説明が加えられている。用語は日本語で表わすのを原則とし、見出しは日・英・独語の順に掲載。見出しの日本語はカタカナで表記し、英語の綴りは米式を採用、独語に該当する語がないときは空欄、なお見出しの英独語には同義語や略語を併記してある。本文は 137 p. で索引は p. 139~p. 189 である。

英和 和英 微生物用語集 附録 菌名の部

日本細菌学会選定 日本細菌学会用語委員会 昭和 48 年 葉根出版 237 p.

日本語で出版されている微生物学の教科書のほか、微生物学およびその関連領域の単行書、衛生法規類を参考にして収録、英和の部 p. 3~p. 123 和英の部 p. 127~p. 215 略語は一般略語及び化学療法剤について p. 219~p. 237 附録の菌名の部は p. 227~p. 236, p. 237 はギリシヤ語アルファベットである。

A Dictionary of Immunology 英和免疫学辞典

Herbert, Wilkinson 共編 小松信彦監訳 昭和 50 年 広川書店 354 p.

免疫学領域で使用されている学術用語のなかから 1,460 語を選択、各項目についての記述は濃縮された形式をとり一般に短文であるが本文の至る所に太字印刷の箇所が出て来る、その用語はそのまま索引の役目を果している、次々と必要に応じてたどって行けば一つの項目に関連してかなりの量の知識が得られるようになっている。特に適語と廃語については、現在最も広く使われている用語を見出し語としてアルファベット順に配列しそれに解説をつけたものであるから、著者らの主観によって採択された用語ではないが、解説欄に特に適語とか廃語とか書いてある場合は、旧用語の更改を意味している。これは国際的な取り決めか、又は現代の一般的な使用法に基づいてそのように判断されたものである。索引は p. 335~p. 354。

精神医学事典

加藤正明 保崎秀夫 笠原 嘉 宮本忠雄 小此木啓吾 昭和 50 年 弘文堂 769 p.+60 p.+87 p.

最初に項目分類一覧 p. v~xiii があり、症候を含む事項と人別に大別し五十音順に配列、本文は一般項目 p. 1~p. 688 人名項目 p. 690~p. 767 で補遺 p. 768~p. 769 は精神衛生法、麻薬取締法、次ぎの 60 頁に

医学図書館 21 巻 3・4 号 (74)

及ぶ文献一覧は、前述各項目に関係する文献のみを収録し、必ずしも精神医学の全般に亘ってはいない。著者名のアルファベット順で、著書(論文)名、発行所、発行年を原則として掲載してある。

文献一覧が本事典の特色と云えるだろう。索引は、和文事項、欧文事項、人名となっている。

臨床精神医学辞典

西丸四方 昭和 49 年 南山堂 362 p.

文字を集めてみて感じたことは、実際このように多くの言葉の必要性はなさそうなこと、人は言葉を作るのが好きで次から次へと同じような概念に新しい言葉をつけなおすものであること、人名をつけるのが好きであることなどなどであったと云う。またいくつかの新しい本を見るとそれぞれ特別な言葉が好んで使われ、それが特徴を出しているもののそれらが皆必要なものとも思えず、また古い廃語的な言葉にも精神医学の発達からみておもしろいものがあるので、言葉の取捨選択には大分個人的な好みが入ってしまうことになったとも書かれている。臨床精神医学と神経学の言葉を選んで 2,600 余語、新語もつとめて採録されているが、あまり偏ったものや意味のなさそうなものは止め、また旧廃語もおもしろいものは掲載されている。本文は p. 1~p. 298 見出し語を体系的にまとめ、どんな言葉が入っているかを知るために都合のよいように収録語一覧 p. 299~p. 311 がある、辞典を体系として使える利点でもある。外国語索引は、p. 313~p. 362 項目名およびそれにつづく同義語、外国人名、解説文中の語で主要なものを約 5,000 語収載してある。

てんかん事典

Gastaut, WHO 国際てんかん用語委員会 和田豊治訳 昭和 49 年 金原出版 80 p.+8 p.

てんかんに関する用語の定義と説明、そして関連用語の位置づけに留意されている。

精神医学用語集

日本精神神経学会 精神医学用語統一委員会 昭和 40 年 26 p.

精神医学に固有な語で主として臨床的に必要なものを採択してある。昭和 34 年 精神神経学雑誌 61 巻号外として 1,595 語を収録して発行された「精神医学統一用語集」の改訂版である。

神経学用語集

日本神経学会用語委員会 昭和50年 15 p.

大腸肛門病用語事典

日本大腸肛門病学会 昭和45年 永井書店 323 p.

学会編ではあるが、岐阜大学鬼東惇哉名誉教授を中心に長年にわたって集積された努力の結晶と云うべきものである。従って鬼東教授の独自の見解が多くみられるので、学会として今後すべてこれらの術語を用いることに決定したわけではない。既に発表された多くの論文中使用されている術語について、注釈がなされており、引用文献も数多く掲載され、この領域の研究者にとって有益、重宝な事典である。主として大腸、肛門領域における解剖用語、疾患名、症候名、手術名、器具およびその他となっており、あいうえお順に配列されている。解剖用語はラテン語、ドイツ語、英語の順である。p. 295～p. 323 に欧語索引がある。

麻酔学用語 訂正 追加(1)

日本麻酔学会麻酔学用語委員会「麻酔」25(2): 221～225(昭51)

日本医学会医学用語委員会は、全医学用語を整理して、医学用語辞典を刊行したが、これにともなって麻酔学用語委員会は、麻酔学用語の訂正、追加を検討し、また学会独自でも追加すべき用語を選定した。これが、麻酔学用語の訂正、追加編で連載されている。

英日仏独西伊 形成外科用語集

日本形成外科学会 昭和48年 166 p.

形成外科用語集として必要な用語約3,000語、用語は英語を見出し語として、日本語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、イタリア語の順に対応されている。本文は p. 1～p. 142 アルファベット順、索引は p. 143～p. 166 で五十音順である。

Handy Pocket Japanese-English-German-Latin Surgical and Orthopedic Dictionary 和・英・独・羅外科、整形外科用語字典

毛受松寿 昭和32年 中央医書 298 p.

- 2) 大高裕一：リウマチ学と医学用語「リウマチ」14(2): 65(昭49)
- 3) 鈴木 鑑：学術用語のむずかしさ「東京医科大学雑誌」33(6): 835(昭50)
- 4) 上田英雄：心エコー図の医学用語「臨床成人病」6(2): 141(昭51)

外国語の用語を中心として、日常必要とされる医語を選んで、日・英・独語の順にまとめたものであり、さらにラテン語の使用されるものは、これを併記してある。付録はなし。

産科婦人科用語集

日本産科婦人科学会用語委員会 改訂2版 昭和43年 金原出版 170 p.

産婦人科独自の用語のみを集録し他科関係のものは除外する方針をとっているが、しかし学問が複雑化してくると境界領域が広くなり、従ってまた産婦人科独自の境界が曖昧となり、線を引くことが必ずしも可能ではない。このような理由もあって或る部分では独自の境界から他科に入りすぎたと思われるところもある。今では死滅化している旧い語も集録されているが、これは文献に出て来るようなものは残しておくのも意味があろうと考えられているからである。そのような語には語尾に(旧)と附することになっている。索引・付録はない。

リハビリテーション医学用語集

日本リハビリテーション医学会学術用語委員会「リハビリテーション医学」11(1): 55(昭49)

義肢装具に関する用語集案

日本リハビリテーション医学会義肢装具委員会「リハビリテーション医学」12(2): 125(昭50)

歯科用語専門委員会の取りまとめ及び審議経過

- 上 殊に歯科基礎学関係を中心に「歯界展望」47(2): 279(昭51) 松井隆弘
- 下 殊に歯科臨床学関係を中心に「歯界展望」47(3): 471(昭51) 松井隆弘

所謂用語集については、各関連学会により作成されたものが商業出版物として出版されるもの、或はそれぞれの機関誌に案として発表されるもの、決定されて発表されるもの等々、日本医学会での制定後の動きを含めて、用語をチェックする意味では各学会つまり機関誌のそれぞれの用語に関する動向には絶えず注視を怠ってはならないと思う。

用語に関する発言も各誌に活発に見受けられるようになった。リウマチ学については大高²⁾ 免疫、血清学については鈴木³⁾ 心エコー図について上田⁴⁾ 等々が、述べて

いる、図書館員は、決定出版された用語集についての情報のみならず、これらの短文についても慎重に情報として記憶されるべきであろう。

8. 漢方、生物、歯学、薬学など関連領域の辞典

漢方大医典

大塚敬節、矢数道明、石原 明、清水藤太郎、木村雄一郎、栗原広三、倉田宗二、昭和50年 講談社 542 p.
漢方概説篇 p. 1~p. 88, 病名別治療篇 p. 91~p. 343, 症候別治療篇 p. 347~p. 401, 薬物篇 p. 405~p. 519, 処方篇 p. 523~p. 534, 附図 p. 535~p. 542。

漢方医語辞典(復刻版)

西山英雄 昭和50年 創文社 358 p.

初版は、昭和33年、2,750語を集録して700部、昭和46年に集録洩れを整理し、350部と出版されたが、これらを復刻したものである。本文は p. 1~p. 349, 和漢薬名略語解 p. 350~p. 355, 和漢薬の異名対照表 p. 356~p. 358, なお漢方医語について、「漢方診療の実際」に348語、「漢方術語解釈」289語、「漢方医語略解」507語、本草辞典などがある。

生物科学辞典

碓井益雄、真船和夫、八杉龍一 昭和31年 みすず書房 474 p.

生物学の隣接科学である医学、農学、植物学、水産学、畜産学などの方面にも力がいれられている。また生物学の主要部門である生化学および生理学の比重を大きくし、なお生命論および方法論に關係する諸項目は、類似の辞典類に比較して著しい特色を示している。術語の外国語は原則として英語、ドイツ語。外国語索引には各術語にその日本語を添付、単独でも述語の対訳辞典として使用出来る。人名索引は、特に重要な人物についての説明が附されている。従って付録の生物学史年表と共に生物学史便覧として役に立つ。項目目次の配列は、新仮名づかいにより標音仮名の五十音順。所要の項目の有無、頁数を容易に見出せる。部門別項目一覧表は所載項目を系統的に分類配列してある。本文は p. 1~p. 332。付録は、動植物の分類表、固定液、主要定期刊行物、生物学史年表、分野に關連のあるノーベル賞受賞者等々、p. 333~p. 374。人名索引は五十音順、p. 375~p. 394。事項索引の和文は、標音仮医学図書館 21 卷 3・4 号 (74)

名の五十音順 p. 392~p. 420, 欧文は、アルファベット順 p. 421~p. 474。

岩波生物学辞典

山田常雄、前川文夫、江上不二夫、八杉龍一 昭和35年 岩波書店 1,278 p.

医学、農学を含めた生物諸科学、換言すれば生物学およびその境界ないし、応用領域を広汎に包括している。基礎的用語のみならず生物学全般にわたって最近の発展を反映するように配慮されている。現在ほとんど用いられない術語も文献の調査のさいにとくに必要と思われるものは収録されている。人名については最近および現代の学者に重点がおかれている。外国語は、英語、ドイツ語を主体とし、重要なものにはさらにフランス語、ロシア語を、また器官の名称などではラテン語を附してある。本文 p. 1~p. 1,082 項目は片仮名見出し、五十音順。付録は、生物分類表、固定液などに項目 p. 1,083~p. 1,144。索引は、外国語索引が p. 1,145~p. 1,254 にあり項目語のみでなく説明文中の重要語も収録、人名索引は p. 1,255~p. 1,257, ロシア語索引 p. 1,258~p. 1,278。

Dictionary of Biological Terms. English-Japanese Japanese-English 英和・和英 生物学用語辞典

永野為武 昭和47年 三共出版 573 p.

現代の生物学は、その急速な発達とともに内容が複雑となり領域は広範にわたっている。あたかも生物学は綜合科学の様相を呈して、数学、物理学、化学、地質学、鉱物学などの基礎科学はもちろん医学、農学、工学など応用科学とも深い関連をもっている。用語に簡単な説明を加えたのは、専門の研究者には目ざわりであろうが、教育者や学者をふくめて医学、農学、工学の關係者、さらには文化科学の研究者にも活用していただく意図のもとにである。本文は、英和の部は p. 1~p. 375, 和英の部は p. 377~p. 559。付録は、動植物名、旧字体の画数による漢字索引 p. 561~p. 573 である。

薬学用語辞典

日本薬学会 薬学用語委員会 昭和46年 広川書店 659 p.

用語の解説は一項目につき原則として100語以内に統一したため必ずしも簡にして要を得たものばかりで

はないきらいがある、用語の選択解説いづれについても種々の分野からの6,000余語という膨大な項目の集成であり、内容、体裁相互の関連づけ等で不十分な点が多い。収載は薬学独特の用語である薬剤学、生薬学、衛生化学、薬局方などの用語に加えて、有機化学、無機化学、物理化学、分析化学、天然物化学、薬理学、生化学、微生物学、放射化学など薬学の研究、教育に欠くことのできない用語が広く収載されている。本文は p. 1~p. 570。附録に薬剤学用語 p. 573~p. 590、生物学的製剤基準一覧表、放射性医薬品基準一覧表、食品添加物一覧表、そして英語、ラテン語名索引が p. 603~p. 659 である。

Pharmaceutical English Dictionary 薬学英語辞典

清水藤太郎 昭和22年 南山堂 199 p.+29 p.

薬学、薬業に関する術語及び薬名の英語辞典であって、これに必要な薬局方、調剤学、化学、植物学に於ける関係語を集めたものである。付録の29頁は日本薬局方薬品名である。

Pharmazie : Elementarer Wortschatz 薬学基本用語辞典

富松祥郎, 阿部孝子, 大槻真一郎, 別府淳子 昭和41年 同学社 226 p.

基本語として最初3,000語のつもりが見出し語その他を含めて1,000語ほど超過せざるを得なかったという。Steinbichler の *Lexikon für Apothekenpraxis in sieben Sprachen* を参考にして用語2,000あまりをほとんど採用してあるからである。見出し語配列はアルファベット順、約1/3になる重要単語には*印を附してある。索引は英語篇 p. 151~p. 187, 日本語篇 p. 191~p. 226。

薬名検索辞典 1974 Japan Drug Index 1974

総合薬事研究所 昭和49年 薬業時報社

見出し語により「和名インデックス」p. 1~p. 225, 日本字及び若干のローマ字で五十音順(浅田飴→Asada Ame)と,「欧名インデックス」p. 226~p. 1,502, (Asada Ame 浅田飴(堀内伊太郎)[成]キョウ根エキス 0.6% ニンジンエキス 0.3% トコンエキス 0.1% マオウエキス 0.3% カッコンエキス 0.3% ケイ皮油適量, 水飴を加えて 100%[効] たんせき, 声のかれ[用] 12Gm 1日3回)の2部から成っ

ている。薬品の国際性を考慮し、原則として後者において、個々の医薬品などの解説と国際的一般名、公定名、化学名、内外の商品名などの相互関係を示すよう編纂されている。収載薬名は、昭和48年末の時点で収集し得たものについて掲載。旧公定名や末発売の商品名さらにすでに市場にない古い薬品の商品名なども収められている。全体として薬品の収載範囲は医薬品(内外の公定名、化学名、基準名、一般名、通称名、略名、コード番号、漢方名、人および動物用の商品名)を中心に、治験薬、医薬部外品、農薬、試薬、食品添加物、化粧品原料などに及んでいる。付録は、会社製品要覧、収載会社略名一覧、和名・欧名対照表、麻薬、劇薬、要指示薬、習慣性医薬品、化学療法剤薬品略号などである。

向精神薬国際薬名辞典

小林司 昭和49年 塩野義製薬 60 p.

1952年にクロルプロマジンとレセルピンが登場して以来、この17年間におよそ700種もの向精神薬が現われてた。そこで国際的薬名対照表があればということとで本書が編集されたのである。

Encyclopedia Dentalis 新歯学大事典

石川梧郎, 伊藤秀夫, 今川与曹, 神沢康夫, 中沢 勇 昭和41年 永末書店 953 p.

約9,000項目の歯学に関係する用語を主体として、これに医学、薬学の語を加えて、その他の学術部門においても歯学とかかわりの深いものは、出来るだけ収録するようにつとめられている。本文 p. 1~p. 713 (義歯 ® Denture, prosthesis © Prothese 広義では人工歯をもった補綴物の総称であるが、狭義では有床義歯をさすこともある)。索引は、日本語索引は五十音順で、p. 719~p. 797, 外国語索引は、英語 p. 801~p. 870, ドイツ語 p. 871~p. 928, ラテン語 p. 929~p. 944, 人名索引 p. 945~p. 953 である。

和・英・独・ラ 標準 歯科用語集 Standard Dental Terminology, Japanese-English-Deutsch-Latin. 3版. 日本歯科大学 歯科用語集編集委員会 昭和47年 医歯薬出版 904 p.

見出し語12,000語、基本的用語、基礎的用語を大幅に強化し、欧米で公認の用語をも可及的にとり入れられてある。歯科用語を中心とし、医科に関連する用

語のうち、歯科に特に関係が深いと思われるものを併せ収録している。本文 p. 1~p. 530 (Gishi 義歯 dental prosthesis, denture, prosthesis, prosthetic restoration, [D] Prothese (f.) Zahnprothese (f.) künstliches Gebiß, Zahnersatz (m.), prothetische Wiederherstellung [L] prothesis (f.)。英語索引 p. 531~p. 712, 独語索引 p. 713~p. 869, ラテン語索引 p. 871~p. 904。

常用歯科辞典

日本歯科大学歯科用語集編集委員会 昭和 45 年 医歯薬出版 660 p.

基礎臨床全科目総数 3,670 語, 日本語見出し, 表音ひらがな, 五十音順, 本文 p. 1~p. 616。索引は, 日本語見出し(附科目別)五十音順 p. 619~p. 660 である。

9. 略語, 術語の辞典

Medical Symbols and Abbreviations 正しい医学略語辞典

沢木修二, 高邑裕太郎, 松本昭彦 昭和 44 年 金芳堂 219 p.

各科で常用している略語を整理, 各用語は略語, 日本語訳, 原語, 解説の順に記載, 略語自体が日本語同様に慣用されているものでは, 日本語訳をつけていないものもある。本文は, I. 略語—日本語—基本語篇, II. 日本語—略語篇からなっている。

Dictionary of Medical Abbreviations 医学略語辞典

野田喜代一, 和田野三郎, 室賀昭三 昭和 46 年 金原出版 181 p.

略語は自分の専門領域や一般の常識になっているものは, 理解出来ても専門を異にする領域の略語は, まだ一般の常識になっていないものが多く, だれにでも理解されるとはかぎらない。医学の領域では, しばしば自分の専門領域外の略語はわからないことが多い

のでこれが作成されたのである。本文 p. 1~p. 168 付録には, 学協会, 資格, 職名などの略語。

English-Japanese Dictionary of Word-Elements in Medicine and Biology 系統的にみた医学・生物学領域の英語術語辞典

宮野成二 昭和 47 年 広川書店 246 p.

医学, 生物学領域における英語術語の系統的理解法を述べたものである。医学, 薬学, 生物学の急速な進歩によって新しく造り出される用語はばく大な数量に達し, かつ複雑化しつつある。病名のみで 30,000 語を越え, さらに病名, 症候, 診断, 術式を含めた医学用英語術語は毎年約 1,500 語ずつ増加しつつある現状である。これら新しい用語は, 主としてギリシア語やラテン語に由来する医学特有の造形語, 接頭語および接尾語の組み合わせで出来上がるが, その多彩, 豊富な点においては化学用語, 工業技術用語などの遠く及ばないところである。第 I 部「基礎編」においてはまず英語の医学, 生物学用語の歴史的発展を略述し, 特に用語の構成, 生い立ち, 由来, 語源についての理解を強調している p. 1~p. 48。(下の表を参照)

第 II 部「術語篇」は医学用語を構成する word element (諸形要素)としての造語形, 接頭語, 接尾語をまずアルファベット順に配列し, かつ重要な例語を掲げてその用語の構造を示してある p. 49~p. 193。

gastro- (造語形) 胃 <Gk gaster (胃) gastric 胃の gastroenteric 胃腸の <gastro-+entero- (腸)+-ic (形容詞語尾) gastropstosis 胃下垂 <gastro-+ptosis (下垂)

第 III 部「用語篇」p. 195~p. 246 用語からの索引である。

Medical Terminology: Medizinische Etymologie.:

Onomatologie Médicale: 活用医語新字典

竹村文祥 昭和 39 年 南江堂 776 p.

英語術語へのアプローチ

器官名	症候, 術式名	-algia 痛	-rrhagia 流出, 出血	-otomy 切開術	-ectomy 切除術	-rrhaphy 縫合 (術)
gastro- 胃		gastralgia 胃痛	gastrorrhagia 胃出血	gastrotomy 胃切開	gastrectomy 胃切除	gastrorrhaphy 胃縫合術
器官名	症候, 術式名	-plasty 形成術	-itis 炎症	-osis 病的状態	-cele 腫瘤ヘルニア	
gastro- 胃		gastroplasty 胃形成術	gastritis 胃炎	gastrosis 胃病	gastrocele 胃ヘルニア	

その言葉の意味を理解することが学問のはじめである。語原ないしその言葉にふかい関連をもつ事実の探索はことにわが国の場合、ほとんど行なわれていなかった。これらの理由から語原とか関連のふかい言葉をあげて、その術語がどのようにして成り立ったかを述べてある。あくまでも terminology であり, Etymologie であり, onomatologie であるところに特色がある。そしてこの本は、語原字典であり、また応用術語集でもある。内容がそうであるように形式にも新しいところがあり、それ故に使い方を理解した上で活用することを奨めている。本文は、p. 1~p. 606 である、次に接頭接尾語 p. 609~p. 634 では、接頭、接尾語はほとんどギリシヤ語、ラテン語に属するものであるが、学名を理解する上に大きい助けとなるので、例をあげて表にしてある。人と事柄 p. 635~p. 692 はこの字典にあらわれた人名とその業績とをアルファベット順にならべてある。イタリックで書かれたものは実在の人物ではなく、神話、伝説の中にあらわれた神、超人、英雄、怪物、あるいは小説の主人公といったものを指している。これによって、多くのすぐれた医学者が発見者、発明者、命名者ないしは関係者として歴史の中にいつまでも消えない足あとを残したことが理解出来る。そしてまた、神話や伝説にあらわれる超人間的な架空の存在が、いかに医学の言葉の中に生きつづけているかを知ることが出来る。主なる索引 p. 693~p. 776 は、五十音順。

医学和英活用辞典

阿南功一、佐久間昭、東福寺英之、藤田拓男、山本亨 昭和39年 医学書院 484 p.

論文全体の構成についての手引きをしたもの、医学用語の解説をしたもの等は、ともかくとして、医学論文に特有な表現を広範に扱っている。見出し語は、使いやすさを主眼に決め、平易な表現が望ましいのであるが、医学論文には独特ないいまわしが多数あるために、見出し語が重複している場合もある。配列は五十音順である。付録はない。

Medical-Dental Dictionary. Japanese-English with Phonetic Signs and Practical Usage Guide

医科・歯科 和英発音文例辞典

山内龍太郎 昭和40年 ベリかん社 535 p.

収録されている学術用語や医学、薬学の用語は使用

頻度の多いと思われるものに制限し、過去15年以上にわたって、アメリカの医学、歯学に関する学術雑誌から集めたものを整理収録したものである。文例はアメリカ人医師の手になるものであるが、各個の例文の内容に著者は必ずしも同意していないという。ただ構文を示してわれわれの発想法との違いを紹介するのが目的で、文法的にも正統的でないものもあるが、活きた英語の見本となるであろうと書かれている。付録はない。

化学の論文を英語で書くための化学英語の活用辞典

千原秀昭、福富斌夫、原 正、橋爪 斌、片岡 宏、香月裕彦、中崎昌雄 昭和48年 化学同人 622 p.

第1部の和英の部、第2部の英和の部から出来ている。第1部の見出し語に対応することばは、名詞のいかににかかわらず第2部に採用されて、第1部の索引のかたちをとっている。なおこれは、雑誌「化学」1967年4月~1969年5月の各号末に別添付録として発行されたものである。

10. 英語による医学術語を学ぶこと

英語による医学術語への案内書を紹介してみたい。

Medical terminology and the body systems. Collin, M. A. Harper & Row, 1974 167 p.

まず Introduction and guide to study から引用してみる。

Medical terminology is the professional language of physicians and all others working in the field of medicine. It seems as complex as a foreign language at first, but as we discover how the terms are used and why they are used, learning becomes easier. Most medical terms are of Greek and Latin origin. Usually the name of an organ or part of the body is Latin, while the condition or disease affecting it is Greek.

或は、The pronunciation of terms follows no hard and fast rules. One might talk to three physicians in the same hospital and find that one will pronounce the word gynecology as “guy-nee-kology” another as “jinn-uh-kology”, and a third as “jy-neh-kology”,そして接頭、接尾語とこの書についての学び方が述べられている。

本文は器官別などにより10項目に分かれている。

例えば The digestive and excretory system では消化器の図解があって, The mouth is the digestive system, where food mixed with saliva and some digestive juices while it is being chewed. 程度の説明が加えられている。そして, 肝臓等の主要臓器には多少詳細にその機能の説明が行なわれている。次に Diseases and disorders の項目を紹介する。Peptic ulcer (also called a gastric ulcer) An erosion of the mucous membrane of the stomach or duodenum, caused by excessive secretion of acid gastric juice. Emotional and psychological problems play an important role in peptic ulcer. This type of ulcer is rarely larger than a quarter if in the stomach, or a dime if in the duodenum. Ulcers are three to four times more common in men than women. If the ulcer perforates, surgery usually must be performed.

そして各節の最後は Terminology review test をもって, その項の学習のしめくくりとしている。200 頁たらずの小冊子である。簡単に持ち歩けるのでどうしても I. M. を使用さざるを得ないわれわれ医学図書館員にとってまず英語の術語に慣れることが必要なので手頃な学習書として紹介してみた。

そしてもう一冊別冊の work book も共に発行されているもので,

Learning medical terminology step by step.

Young, C. G., and Barger, J. P. 3rd ed. Mosby, 1975. 325 p.

を紹介すると, 構成は前書とほぼ同様であるが, 語彙は豊富であり, 解説もややぐわしくなっている。Introduction を引用する。

This book is designed to furnish the basic tools for building a medical vocabulary and to acquaint the reader with medical terms as they pertain to anatomy, physiology.

第1章 Sciences devoted to the study of the body and cure of diseases. Study of the body→ There are six branches of science that deal with the study of the body. They are anatomy, physiology, pathology, embryology, histology, and biology. → anatomy 以下の解説。Medical specialties → Specialties for the practice of medicine were unknown in early Roman histology, but in modern

medicine there are many. → pediatrics 以下の解説。第2章 Meaning and use of components in building a medical vocabulary. 第3章 Structure of the body. これは簡単な生物学と云える読み物である。第4章 Skeletal system 以下の章から各器官別に解説されている。そして章末には glossary がそれぞれ付けられている。因に, 第9章 Gastrointestinal system で ulcer は, distintegration and necrosis of a tissue, resulting from loss of substance of the mucous membrane. Ulcers may be duodenal, jejunal, marginal, peptic, gastric, diabetic, or perforating. Curling's ulcer occurs in the duodenum as a result of extensive burns of the body surface, and chronic ulceration in the colon is known as ulcerative colitis. その他の章は Multiple-system diseases or systemic diseases. Laboratory investigations. であり, Abbreviations and symbols で終わっている。なお work book として *Student's workbook for learning medical terminology step by step*. Young, C. G. Mosby, 1975. 148 p. がある。

兎にも角にも術語に慣れて欲しいという意味で敢えて紹介した。

11. 人名と業績の辞典

体系 世界医学史(書誌的研究)

三木 栄 昭和45年 医歯薬出版 33 p.+339 p.+99 p.+270 p.+51 p.+76 p.

第1部総論 医学とは何か, 医学史とは何か p.1~p.33 第2部編年史 p.1~p.339 第3部史的研究業績 p.1~p.99 人類医学についての歴史的研究で主要と思われる業績を収めた解説目録, 配列は分類別であり, 疾病史を特にあらためて設けてある。第4部, 原著解説目録, p.1~p.270. 各時代で広く行なわれた医学の進歩に寄与したと認められる原著を収めてある。しかし主要な業績は無数に存在するわけでこれが全てではない。総索引は, 人名と件名とに分かれている。

世界医学人名辞典

木下正中 昭和25年 医学書院 158 p.

第1部 p.1~p.31 日本人, 富士川游の「日本医学史」, 中野操の「日本医事大年表」より採録, 第2部 p.35~p.134 欧米人 *American Medical Dictionary* 及び Guttman の *Medizinische Terminologie* から

採録, 第3部 p. 139~p. 158. 中国人, 陳邦賢, 支那医学史, 中国人名辞書から採録。

12. 文部省編 学術用語集

化学編 増訂版 昭和50年 日本化学会 672 p.

11,200 語収載

動物学編 昭和29年 大日本図書 152 p.

2,500 語収載

植物学編 昭和31年 大日本図書 182 p.

3,200 語収載

遺伝学編 昭和49年 日本学術振興会 168 p.

1,800 語収載

歯学編 昭和50年 医歯薬出版 160 p.

640 語収載

これら学術用語集については「学術用語の標準化28年の展望」を参照されたい。⁵⁾

13. 辞書と症候群

症候群事典

田坂定孝, 木本誠二, 大淵重敏 昭和40年 金原出版 396 p. (本文) + 21 p. (同義語索引・和文・五十音順) + 47 p. (同義語索引・欧文・ABC 順)

すべての症候群について, 同義語, 定義, 自覚症状, 検査所見, 鑑別診断, 初めての研究者および文献の, 各項目の要点を整理し, 記載したもので, わが国における本格的な症候群事典の嚆矢といえるものである。症候群の定義は学者によって若干の相違はあるが, 「同時に出現する一群の症状が一つの疾患あるいは異常の病像を作りあげている場合」をいう。つまり従来のさまざまな疾病概念と一致しない一群の症状とも云える。古今の主要な症候群約800項目をあげて, その同義語, 定義, 症状の内容, 診断, 病因, 病理学的事項, 始めて報告した研究者, 文献等を解説したものである。配列はアルファベット順, 外国人名のつく症候群は原語のまま, 日本語化が普及している症候群は日本語のまま, 従って見出し症候群は原語と日本語が交互に掲載されている。索引は見出し語及び同義語のすべてを日本語及び外国語に分けて出している。

例として Zollinger-Ellison 症候群を示してみよう。④ Zollinger-Ellison's syndrome ⑤ Zollinger-

Ellison's syndrom ⑥ syndrome de Zollinger-Ellison. [同義語] Ström-Zollinger-Ellison 症候群, Ström-Zollinger-Ellison's syndrome. [定義] 胃腸管の潰瘍をともなうインスリンを形成しない膵ラ氏島の腫瘍(腺腫, 癌)をいう。[症状] 略 [文献] Zollinger R. M. and Ellison. E. H.: Primary peptic ulcerations of the jejunum associated with islet cell tumors of the pancreas. Ann. Surg. 142: 709, 1955.

Dictionary of Medical Syndromes.

Magalini, S. Lippincott, 1971, 591 p.

本文は症候名と人名の ABC 順で, p. 567~p. 591 は索引である, Zollinger-Ellison: synonyms-symptomssigns-etiology-pathology-diagnostic procedures-therapy-prognosis-bibliography の順に記載されている。

Illustrated Dictionary of Eponymic Syndromes and Diseases and Their Synonyms.

Jablonski, S. Saunders, 1969. 335 p.

事項の記載は前書より簡単ではあるが, 図版の挿入, 同義語, 参照は多い, Zollinger-Ellison syndrome を例にすれば, Ström-Zollinger-Ellison syndrome, gastric hypersecretion-peptic ulceration-pancreatic tumor, ulcesogenic tumor of the pancreas syndrome から参照が付けられているということである。当然参考文献は付けられている。

Encyclopedia of Medical Syndromes.

Durham, R. H. Hoeber, 1960. 628 p.

Introduction は,

The word "syndrome" has been in recognized use since 1541 when it appeared in Coplands' English translation of Galen. Although the word is of uncertain definitude nosologically and scholars are not agreed upon a pronunciation, it has become one of the most universally used and seemingly in dispensable medical terms extant. Definition of a syndrome is both vague and variable. It is usually defined as a concurrence or running together of constant pattern of abnormal signs or symptoms. According to Himsworth, a syndrome has as its philosophic basis not specific disease factors but a chain of physiologic processes, the interruption of

5) 青戸邦夫: 学術用語の標準化28年の展望「学術月報」28 (9): 653~656 (昭50)

which at any point produces the same ultimate impairment of body function. A syndrome may thus arise from various causes. Diabetes mellitus may be regarded as a classic example inasmuch as the same basic disease pattern may occur either from an associated hepatic disorder, Cushing's syndrome 1, acromegaly or from obesity.

本文は、同義語からの参照は当然付けられている。臨床例を中心とした解説で文献は文中に紹介されている。

症候群名の辞書に限って、欧米のものを紹介したのは、症候群という概念からなるべく新しい辞書を取り上げる必要があったからである。何時新しい症候群が出現するかもわからないからである。実際は、辞書では間に合わないことが多い。そこで症候群が文献として発表される過程、経過を述べてみたい。「MCLS (急性熱性皮膚粘膜リンパ節症候群)」をとりあげる。川崎富作医師は、最初の患者、4歳の男子と昭和36年1月5日に出会った。そしてこれを昭和37年10月13日 第61回日本小児科学会千葉地方会、第391回千葉医学会分科会で以下の如くに述べた。小児科の常識では、熱性疾患に手足の膜様落屑があれば猩紅熱が考えられるが、発熱、紅斑様発疹、眼球結膜充血、口唇びらん、口腔発赤、頸部の淋巴腺腫脹があるので、猩紅熱、あるいは、眼皮膚粘膜症候群の範疇にも入れ難い。その最も特徴である猩紅熱様の膜様落屑を注目して、非猩紅熱性落屑症候群と命名した⁶⁾、次いで、昭和39年10月30~31日に行なわれた第15回東日本小児科学会、第9回中部日本小児科学会においては、当初よりの症例に加えて、計22症例を所謂眼皮膚粘膜症候群と考えられると判断して報告している⁷⁾。昭和42年には、更に症例を加えて50例を「指趾の特異的落屑を伴う小児の急性熱性皮膚粘膜淋巴腺症候群」と題して発表した⁸⁾。これには、所謂眼皮膚粘膜症候群に似てはいるが、種々の相異点ありとして、7つの相異点を

あげている。結論として、頸部淋巴腺腫脹ほかの特徴を述べ、文献的考察の結果、従来迄に報告されたとの症候にも属しないと結んでいる。この論文発表ののち、各地から同様症例の報告が増加したという。昭和45年に厚生省医療研究助成補助金によりMCLS研究班が発足し、剖検例はすべて冠動脈瘤と血栓閉塞がみられることから、心血管障害を主体とする全身性多発性動脈炎の様相が深いこと、或は冠動脈炎を合併している症例は従来からいわれている結節性多動脈炎乳児型と区別することは出来ないのではないかなどともいわれている。不明な点が多い。症候群とは、病因が解明されるまでのかりそめの各称であるといえるかも知れない。いろいろな意味で、当初の症候名から現在に到る経過を追跡してみると、非猩紅熱性落屑症候群→眼皮膚粘膜症候群→小児急性熱性皮膚粘膜淋巴腺症候群→小児急性熱性皮膚粘膜リンパ節症候群 (Acute infantile febrile mucocutaneous lymph-node syndrome)。欧文名現在日本ではMCLS (Mucocutaneous Lymphonode Syndrome) アメリカではMLNS (Mucocutaneous Lymph Node Syndrome) である、発見者名をとって川崎病とも云う。二つの症候名、小児急性熱性皮膚粘膜リンパ節症候群は症状と関連ある名称、川崎病は症状に関係なく単に発見者名を付している名称である。こういった症候群などの命名について高津は、人名をつけた症候群或は病名をやめようと提唱している。それは、医学の学習はいわば経験と記憶にたよることが大きい。疾患を記憶にたよる場合、病名と症状に何等の関連もない場合と何等かの関連がある場合とでは学習能率に大きな影響がある。従っておたがいに人名をつけた病名をとなえることを避けたいというものである⁹⁾。これは医学者のみならず、われわれ医学図書館員も同様で文献を検索する上で大変に不都合なことである。

症候群についてやや冗漫になってしまったが、要は辞典で症候群をチェックする場合の注意を述べたのである。結論的にいえば、かくの如く疾患名がその実体が究明されることによって変化すること、辞典として編纂されるまでの時間的なおくれがあることなど。注意して欲しいと思うのである。時間的なおくれ、つまり辞典で情報を得るのではおそすぎる、どうすればよいのか。雑誌で日常的にその補足を続けねばならない、それについて述べてみる。

1. 形態的に1号すべてがこれに当たるもの

「代謝」8巻臨時増刊2号 先天性代謝病ハンドブック

6) 川崎富作：非猩紅熱性落屑症候群について「千葉医学雑誌」38 (3/4)：279~280 (昭37)

7) 神前章雄、麻生治夫、川崎富作、坂田 堯、青木芳郎、久保倫生、窪田誠一、柳下洋子：眼・皮膚・粘膜症候群の20例「日本小児科学会雑誌」69 (3)：274 (昭40)

8) 川崎富作：指趾の特異的落屑を伴う小児の急性熱性皮膚粘膜淋巴腺症候群 (自験例50例の臨床的観察)「アレルギー」16 (3)：178~222 (昭42)

9) 高津忠夫：人名をつけた症候群或は病名をやめよう「小児科診療」34 (3)：305~306 (昭40)

ク (昭46)

「小児医学」6巻2号特集症候群 (昭48)

2. 通常号のうち特集号を組むもの

特集 かぜ症候群「小児外科内科」7(8):757 (昭50)

特集 脳幹症候群「神経内科」2(6):503 (昭50)

特集 最近注目されてきた疾患「内科」31(6):1,006 (昭48)

特集 各科における症候群「診断と治療」57(5):761 (昭44)

特集 外科における症候群「外科診療」9(3):259 (昭42)

特集 内分泌周辺の疾患 症候群名解説「ホルモンと臨床」13(10):741 (昭40)

特集 主要症候群の診断と治療「診断と治療」52(8):1,279 (昭39)

3. 毎号シリーズして継続掲載されるもの

整形外科・冠名症候群「臨床整形外科」3(昭43)4

→新しい症候群「内科」25(昭45)1→

症候群・徴候「脳と神経」26(昭49)1→

サブノート 症候群メモ「小児科臨床」27(昭49)6→

4. 単独の疾患名として特集号の形態をとるもの

特集 Creutzfeldt-Jakob 病「神経内科」3(6):483 (昭50)

特集 川崎病 (MCLS) 急性熱性皮膚粘膜リンパ節症候群—その本態を求めて—「日本臨床」34(2):221 (昭51)

5. 単発の文献として発表されるもの

Goltz 症候群の1症例「小児科臨床」29(3):146

(昭51)

Scimitar 症候群の1症例「小児科臨床」29(3):163

(昭51)

以上の如く、辞書で症候群を検索する場合には、補助手段として雑誌を十分に活用しない限り正確な探索は出来ないと考えられる。従って日常的な不断的努力が必要であるということである。

14. お わ り に

恐らく生涯で初めて医学書を手にしたのであろう医学図書館員向けに、辞書のあれこれを紹介解説してみた。辞書は副書名に欧文名をつけるものが多い。それが背文字や表紙に書かれている。本稿ではその書名を最初に紹介し標題紙に書かれているものは次に書いた。何故ならば、本稿を読んで気に入った辞書を探すときに書架に行く。書架の前では当然、背文字の方がわかりやすいからである。辞書を手に取ったら、まえがきや凡例をよく読む。そして座右に置く。これは使い易い、わかりやすいと思ったら自分の手足として使いこなし、日常の業務に生かす。プロとしての辞書の使い方を習得して欲しいと思う。文献の探索に I. M. を使用するかぎり、英語の術語は憶えなければならないと思うので、欧文の簡単な術語集を紹介した。症候群を例にして辞書との関連を述べたのであるが、これは辞書に書かれていることは定説といえるが、既に過去のものである。われわれの医学情報は常に現在の、なまの情報が要求される。従って辞書を補足する自館製の資料集を日常的に書き込んでおかなければならない。つまり日進月歩の心掛けを決して忘れてはいけないということなのである。

(昭和51年5月1日受付)

※

※